熏風
～教育委員会だより～
第六号　平成二十九年十二月十五日(金)
河内長野市教育委員会

非マニュアル人間を！

現在、市ではいくつもの課が集まって様々な視点で業務改革・改善に向けた検討会議を開催しています。

ある日の会議で、残業の多い係の係員と上司のやり取りが紹介されました。紹介しましょう。

「その作業はなぜやっているのですか。」

「前々からやっているからです。」

「その作業を無くすことはできるのですか。」

「必要だから前からやっているので無くせません。」

さらに、やり取りが続きました。

「昔からその作業が引き継がれているので、いつから行っているのか、その目的や効果はわかりません。」

今行っていることに何の疑問も持たず一生懸命業務をこなしている。このようなことは、行政だけの話ではなく、どこにでもある問題かもしれません。

庁内では、業務の適正化・効率化のためにマニュアルの作成・活用を推進しています。

マニュアルを作成し、それに従い事務を進めることで、業務に関する知識や経験の量によらず、一定水準のサービスを提供することができます。また、作業の手順を見える化し、ミスの起こりやすい部分についてはチェックリストを作成するなどして重点的にチェックすることで、チェック機能の強化や効率化につながり、ミスや不正を防止することに効果があります。さらに、ＯＪＴにも役立つ効果的な取り組みと言えます。

業務をマニュアル化することは、効率がアップし、問題点の改善に繋がるというメリットがあるのですが、これを作成するうえで注意することがあります。それは、業務や作業などの目的や考え方、プロセス等をマニュアル等に明記しておく必要があること。そして、常に問題意識を持ち新しい考え方で自主的にマニュアルを更新していくということです。なぜなら、考え方やプロセスなどがわからなければ、イ

レギュラーな事態に対応することもできなくなります。また、時が経ち仕事のやり方も変われば、また改善が求められます。そんなとき、前出の職員と同じように「マニュアルに載っていることなので変更できない。」などいう言葉は出てこないのでしょう。

先日、「採用面接官のためのスキルアップ研修」を受講しました。質問力と応募者を見抜く能力を養う研修です。この中で、「今、企業が必要としているのはどんな能力が高い人だと思いますか。」と講師の先生の質問がありました。先生いわく、“コミュニケーション能力の高い人”だそうです。

最近は、職場や取引先との人間関係がうまく構築できず、ストレスによって病気になったり、すぐに辞めたりする人が多いからだそうです。そして、面接ではそれを見極めるために、その人物の主体性に着目するのだそうです。つまり、自分で考え、行動し、その結果を自分自身で分析し、更に次につなげることのできる人が、現代社会で求められている人物像であり、教育・子育てのねらいでもあります。

この春、『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』及び『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』が改定されました。平成３０年度から適用されます。そして、“幼児期の終わりまでに育ってほしい姿”として１０項目が明示されました。この各項目に共通するのが、“コミュニケーション能力と主体性”です。幼児教育・保育に携わる者は、この能力の芽をしっかり植えつけて、小学校に接続していかなければなりません。そして、その子ども達が社会で活躍する時、決して「以前からやっていることなので続けます。」ではなく、自分でしっかり考え、「この目的のためにやっているのです。」「こういう目的を達成するためには無くせません。」「無くします。」と答えることができる大人になってほしいと思います。そのためには、私たちも常に「なぜ、どうして」と問題意識を持ちながら、主体的に業務に当たらなければなりません。少しずつでも何かをよくしていくために・・・・。

（文責：子ども子育て課長　阪本　英之）